

一二ノ「インキ」ノ製法

牧田らく

善良ナル「インキ」ノ具フベキ性質

- 一、ペン先ヨリ流れ出シノ容易ナルコト
- 一、紙面ニ記シタル時速ニ其色ヲアラハスコト
- 一、ペン先及ビ紙質ヲ腐蝕セザルコト
- 一、密閉器ニ貯ヘタル時残滓ヲ生ゼザルコト
- 一、清澄ナル色液ニシテ且水中ニテハ極微ノ粉末トナリ溶解セザルコト

製法

「ウライティングインキ」ノ主原料ハ五倍子、硫酸第一鐵及ビ「ゴム」ニシテ其混合ノ割合ヲ異ニスルニヨリ種々ノ「インキ」ヲ製スルヲ得五倍子ハ之ヲ打碎キテ粗粒トナシ沸點ニ近キ温度ノ水中ニテ數時間浸出ス、其煎汁ヲ濾過シ之ニ硫酸鐵ノ溶液ト「ゴム」ヲ加フ

次ニ二三ノ種類ニ付テ其原料ノ割合ヲ紹介スベシ

- 1、五倍子 一二、硫酸鐵 五
- 「セネガルゴム」 五 水 一一〇

此「インキ」ハ黑色ニシテ普通ノ目的ノ爲ニハ最有用ノモノナリ

2、五倍子

- 一、硫酸鐵 二
- 「インヂゴ」 一七 水 三三

此「インキ」ハ前者ヨリモ美ニシテ多少藍色ヲ帶ブ

- 3、又硫酸「インヂゴ」九〇ヲ三〇〇ノ水ニ溶解シタルモノハ藍色「インキ」トシテ製法最簡單ナリ
- 4、赤色「インキ」ヲ最簡單ニ製スルニハ「ヨーシン」ヲ水ニ溶解ス其分量ハ適宜ナリ此「インキ」ハ

其色甚美ナリ

以上ハ「インキ」ノ主原料ナレドモ此他ニ少量ノ藥品ヲ用フ「インキ」ガ漸次濃厚トナルヲ防グニハ「クレオソート」或ハ石炭酸ノ少量ヲ加フルヲ可トス「ザリチル」酸ノ微量ハヨク開放セル「インキ」壺ニ於ケル「インキ」ノ濃厚トナルヲ防グ

五倍子ト硫酸鐵ヨリ製シタル「インキ」ハ多少清澄ナラザル所アリ之ニ少量ノ砂糖或ハ硫酸銅ヲ加フレバ光澤ヲ附與ス但シ後者ハ多少ペン先ヲ腐蝕スル恐レアリ

「インキ」ハ時トシテ最初黑色ヲアラハシタルモ時ヲ經ルニ從ヒ黃色ヲ帶ブルモノアリ之ハ用キタル硫酸鐵ニ少量ノ「アムモニア」水ヲ加フルニヨリテ防グコトヲ得

又五倍子ノ代リニ「櫛」ログウード」及ビ「解」赤揚ノ樹皮等ヲ用アルカ或ハ之等ヲ五倍子ニ混合シテ用フルコトアリ然レドモ此「インキ」ハ流れヨロシカラズ且容易ニ變化ス

「セピア」ハ鳥賊ノ墨囊ヨリ製セラル此目的ノ爲ニハ乾燥シタル墨囊ヲ粉末トシ灰汁ヲ加ヘテ摺リ碎キ凡ソ三十分間煮沸ス次ニ其液ヲ濾過シ去リ鹽酸ヲ以テ中和シタル後其沈澱物ヲ度々水ヲ以テ洗滌シ低温度ニ於テ乾燥ス之ヲ更ニ大理石製ノ臼ノ上ニテ細微ナル粉末トシ然ル後塊トスルカ或ハ濕リタル状態ニテ又ハ管ニ入ルルカ或ハ油ヲ加ヘテ結合セシム。

接木 雜種

宮崎素

接木雜種トハ接木癒着部ヨリ生ゼシ枝條ノ發育シタルモノニシテ、接穂ト砧木トノ兩性質ヲ混合スルコト、有性的雜種ニ見ルモノノ如キ状態ヲ有スルモノニシテ、一八二六年、佛國巴里ノ近傍ニ於テ Adam 氏ガ始メテ作りシト云フ *Oytisus Adami* 及ビ、同國ブロンヴオーノ雜種種樹 *Crataegomespilus* ノ類ナリ。 *Oytisus adami*、 *C. Laburnum* = *C. purpureus* ヲ接穂トシタルモノナルガ、 *Laburnum* ノ花ハ黄色ニシチ毛多ク、 *purpureus* ハ紫色ノ花ヲ開キ且前者ニ比シテ平滑ナル植物ナリ。而シテコノ兩種ノ接木ニヨリテ得タル *C. Adami* ノ花ハ濁赤色ニシテ *purpureus* ノ如ク平滑ナラズ、又 *Laburnum* ノ如ク多毛ナラザルモノアリ、又花ノ半分ハ *Laburnum* 他ノ半分ハ *purpureus* ナルモノ等ヲ生ジタリト云フ。

サレド、所謂接木雜種ナルモノノ、普通有性的雜種ト異ル點ハ、第一其ノ生ゼシ雜種ノ發育器官ガ、屢々ソノ性質ヲ分離シテ、母樹ノ何レカノ性質ノミヲ擔ヘル枝ヲ生ズルコト、第二、接木部ヨリ生ズル芽條ハ、何レモ同ジ程度ニ、兩母樹ノ性質ヲ擔ヒ居ラザルコトナリ。第一ノ例ハ *Oytisus Adami* ニ於テ見ル所ニシテ、屢々母樹ノ一ナル *C. Laburnum* ノ性質ノミヲ擔ヘル枝ヲ生ジ、且 *Adami* ハ結實不能ナルニ、該枝ハ母樹ノ如ク結實可能ナリ。稀ニハ又他ノ母樹ナル *C. purpureus* ノ性質ノミヲ擔ヘル枝ヲ生ズルコトアリ。殊ニ面白キハ、一枝ニシテ一半ハ *Adami* 他半ハ *Laburnum* ノ性質ヲ帶ベルモノヲ生ズルコトナリ。

爾來、多數ノ學者ハ、各種ノ植物ニツキ、實驗的ニ接木雜種ヲ生成セシメント企テ、百方努力スルトコロアリシト雖モ、未ダ一モ成功ヲ見ルニ到ラザリキ。 *Winkler* 氏モ夙ニ該問題ノ研究ニ指ヲ染メ、特ニ實驗材料ノ撰擇ニ留意スルトコロアリタリ。氏ハ以爲ラク、接木雜種生成ノ目的ヲ達センニハ、癒傷組織ヨリ不定芽ヲ發出スルコト、極メテ容易ナル植物ヲ撰バザルベカラズト、然レドモ斯ノ如キ要求ニ適合スル植物ハムシロ少數ナルガ、氏ノ經驗ニヨレバ、茄科植物、及ビ白花菜科植物ヲ以テ最モ可トナス。今該科ノ植物例セバとまといノ幼苗ヲ砧木トシ、他ノ茄科植物ヲ接穂トシ、斜截、鞍合、楔合ノ方法ニヨリテ接木ヲ行ヒ、其ノ充分癒着スルヲ待チテ、接木部ヨリ截斷スル時ハ、其ノ傷面ノ一部ハとまとい、一部ハ他ノ植物ノ組織ヨリナルコト明カナリ。